



# HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	札幌の木、北海道の椅子展 '21_'22
Author(s)	SAW; アノオンシツ; ギャラリー創 et al.
Description	札幌の木、北海道の椅子展 '21_'22. 会期2022年6月4日(土)-6月19日(日). 会場: Gallery創, アノオンシツ. 展示カタログ
Issue Date	2022
Doc URL	<a href="https://hdl.handle.net/2115/88989">https://hdl.handle.net/2115/88989</a>
Type	other
File Information	Sapporo-no-ki_Hokkaido-no-isu-ten_21_22.pdf





札幌の来、  
北海道の  
椅子展 <sup>'21</sup>/<sub>'22</sub>



**Sapporo Association of Woodworkers (SAW)** は、  
札幌を中心に活動をしている木工家、デザイナーが世代を越えて横の繋がりを持ち、  
北海道はもとより道外・海外との情報交換やネットワークを広げることを目的としています。



S.A.W.2020

## 札幌の木、北海道の椅子展 '21-'22

会期 2022年6月4日(土) - 6月19日(日)

### 目次

1. p. 2  
ごあいさつ | SAW・GALLERY 創  
本展を振り返って | 祐川 諭
2. p. 3-8  
展示風景
3. p. 9-21  
作品・出展者紹介
4. p. 22-23  
製材の記録
5. p. 24-27  
展示に寄せて | 朴 炫貞 (北海道大学 CoSTEP 特任講師)
6. p. 28-29  
ご協賛いただいた皆様

## ごあいさつ

「札幌の木、北海道の椅子展」は北海道の木工家・デザイナーが札幌の木材で椅子を制作し、未利用材の活用や地域材のサイクルを考えながら小規模な木工・ものづくりの可能性を探る展示です。二回目となる今回は北海道大学 CoSTEP・北方生物圏フィールド科学センターと協力し、札幌 石山通に架かる跨道橋の解体と共に、研究林で役目を終えたイチョウとアカナラを主材とした新作椅子が並びました。伐採にいたる背景と椅子を通じ、地元の「材料」「木工家・デザイナー」「ユーザー」がつながる小さなサイクルの大きな可能性を模索していきます。

最後に、本展の実現のためにご支援、ご協力いただいた機関、企業の皆様に厚く御礼申し上げます。

SAW  
GALLERY創

## 本展を振りかえって

北海道大学 CoSTEP の朴さんからお声がけいただいたのは第1回目の展示が終わった直後の2020年7月。生まれも育ちも札幌の自分でも、札幌のど真ん中から木材が出てくるものなのかと期待と不安が混ざりながら北海道大学に向かったことを覚えている。そして今まさに札幌駅に滑り込む列車を背景に佇む木々たちが印象的だった。今回私は運良く、木を選び、伐採し、皮をむき、板に挽き、乾燥させる一連の過程を追うことができたが、分業が確立されたこの業界ではなかなか無い経験だろう。木工家やデザイナーがそうした経験を積みれば良い椅子ができるのかといえばそうではないが、「どこでだれがどうやって」を知ることは現代のものづくりにおいて求められる「フック」や「ストーリー」だろう。そして来場者数の多さが単に椅子としてだけでなく「背景」への関心の高さを物語っているのかもしれない。全国的にみても地域材を使う取り組みや企業は年々増えてきているし、数年前からSDGsというワードと共に社会的な気運も高まっている。その中でこの企画がメーカー・ユーザーに「地元から出た材料を消費する」という当たり前のような選択肢を再考するキッカケになったら幸いだらう。

SAW 代表 祐川諭

## 2.

### 展示風景



## 1.





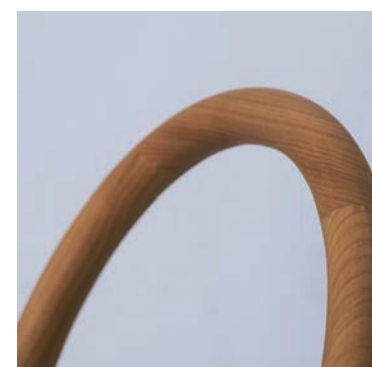
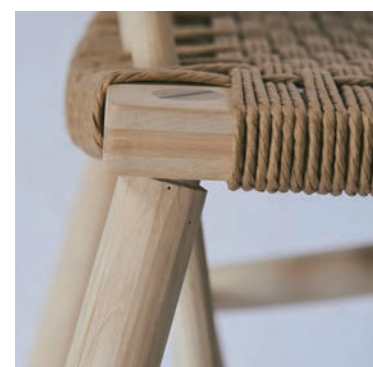


サテライト会場アノオンシツでの展示の様子。

(上) 写真家の柿本拓哉さんによる、伐採した時残しておいたディスクを撮影した写真。

(中) 出展作家と研究者のトークの抜粋を、収録場所である「木を感じられる場所」の写真と共に展示し、12種類のトークの入口としての役割が目指された。

(下) 材として使用したイチョウとアカナラが生えていた場所を示し、以前の姿の想像を促す。



### 3. 作品・出展者紹介

KANTO

石津真一



### コシカケ

サイズ：W360xD350xH810mm、素材：イチョウ、オイル仕上

日常の道具（椅子）として軽やかな佇まいでじっくり座ると言うよりも忙しい人をサポートしてくれる小休憩する為の小椅子。道運びのことを考えて、強度を保つギリギリまで削り出し軽量化を図りました。

石津 真一（札幌）

2010年（平成22年）10月に設立。

お客様と一緒に考えるオーダーメイド家具、店舗向けの什器などの製作を承っております。オリジナル家具は、材料選び、製作、塗装に至るまでの全ての工程を自社で行っており材料の美しさを最大限に引き出し使用時にその性能が感じられるシンプルなデザインを追求し、使うほどに好きになるものづくりを心がけております。

gauzy calm works

木村 亮三



### HU-BENCH

サイズ：W1500xD480xH720 SH=420mm、素材：イチョウ、オイル仕上

獲得した資材が幅広のイチョウの材だった。

細身のフレーミングの設計を得意としているが、材の強度とせっかくの板の幅を生かす事を念頭に設計を行った。

アイテムはベンチとし、座板を一枚で取り、材の表情から素朴な印象のベンチとなるように、しかしどこか洗練された雰囲気となるように留意してデザインと製作を行った。

木村 亮三（旭川）

2010年にスタートしたオーダーメイド家具ブランド、gauzy calm worksを創業。

ものづくりを楽しむ心を大事にしながら、死ぬまで仲間たちとのづくりに携わりたい。

gauzy calm works

友重 圭司



### ベンチ

サイズ：W1200xD350xH420mm、素材：イチヨウ、オイル仕上

柔らかく軽い素材で家具としての強度を持ちつつ薄く軽快な印象のベンチを制作した。座板の形状を三角形にする事で外観を薄くし、また脚をV字する事でパーツ数を少なくまとめ全体的にシンプルな形にした。

友重 圭司（旭川）

首威子府美術工芸高等学校で木工を学び卒業後は東海大学旭川校舎で家具のデザインを学びました。東京の店舗什器製作会社を4年勤めた後に今のガージーカームワークスで家具制作をしています。

つきとふね

黒蕨 亮太・真弓



### ゆさゆさ

サイズ：W700xD250xH430 SH=400mm、素材：イチヨウ、ホワイトオイル仕上

北大のイチヨウの木のイメージを落とし込んだ揺れるスツール。考え事をした時などにアイデアが湧いてくるような居心地のいい揺れ具合。揺れる分、強度はしっかり。だけど、可愛らしく。

黒蕨 亮太・真弓（旭川）

それぞれの技術を注ぎ込み旭川の緑豊かな環境で自宅をリフォームしながら生活し、その中で日々ものづくりを楽しんでいる。2022年4月ガージーカームワークスより独立、開業。北海道内での木工ワークショップイベントも手掛ける。

Zoo factory

岸本 幸雄



### くまいす

サイズ：W400xD800xH550mm、素材：イチヨウ、オイル仕上

むかし、この木が立っていた北大のその場所にも熊が歩いていた。

岸本 幸雄（札幌）

1966年生まれ、札幌市在住。かわいいモノしか作りません。

札幌の円山動物園近くで木工家具、クラフト、アート作品を制作。アート作品は、自身の幼少期の記憶から「月」をテーマに平面、立体を制作、発表している。

アートの企画ユニット「P∞ARTNER/パートナー」のメンバー。/札幌市立大学、北海道教育大学釧路校非常勤講師

北の住まい設計社

城浦  
光希



### LIM Chair with Arm

サイズ：W536xD495xH820、SH425mm、素材：アカナラ、オイル仕上

北の住まい設計社のアイデンティティである「職人の手仕事・無垢材・天然塗料」はそのままに、より地球環境に配慮したサステナブルな家具作りを目指す組立家具のシリーズ「LIM(リム)」。分解梱包することで輸送にかかるエネルギーを削減できるだけでなく、組み立てる体験が家具への愛着が育むこと、それによって長く使い続けていただけることを期待したシリーズです。この椅子は、完成時の1/5のサイズで梱包可能。様々な暮らしに馴染むよう普遍的な椅子らしい形を基本形とし、歩留まりの良い部材寸法を基点に設計しました。アームは着脱可能で、オプションパーツとして追加加工なしで後付けもできる構造です。

城浦 光希（東川）

1995年帯広生まれ。小学校時代、自分の部屋を得たことをきっかけに、インテリアに興味を持ち始める。家具作りを学ぶため、音威子府美術工芸高校に進学。その後、デザインの重要性を感じ、東海大学デザイン文化学科に進学。家具にとどまらず、建築やグラフィックのデザインも学ぶ。2018年北の住まい設計社に入社。1年ほど家具製造に従事した後、デザイナーに。現在は自社製品の開発・設計や特注家具の設計を始め、製品撮影や販促物のデザインなども手がけています。作り手を経験したことで得た知識や感覚を、デザインに生かしていきたいと考えています。

## THREEK

宮島 弘之  
仲上 博明  
後藤 はづき  
レービィ・ラウリラ



### HU-01

サイズ：W400xD500xH710、SH425mm、素材：イチョウ、オイル仕上

北大でずっと根を下ろしてきたイチョウの木は一般的な流通材とは違い、まっすぐきれいに育てられたわけではなく、雨風にあたりながら研究林でたくましく育っていました。そんなイチョウに椅子を通して、たくさんの方々に触れて貰いたいです。

宮島 弘之、仲上 博明、後藤 はづき、レービィ・ラウリラ（札幌）

2018年4月18日、開業。現在は株式会社河野銘木店のグループ会社として活動を続ける。主な製作は、天然木を生かしたオーダーメイド家具。お客様と一緒に木を選び、その木材を生かしたデザインをご提案し、製作する。他では手に入らない、生涯を共にする一点ものを目指しています。

## 家具工房 santaro

高橋 三太郎



### 1/f（f分の1）

サイズ：W500xD460xH730、SH530mm、素材：イチョウ、オイル仕上

椅子のおもしろさは、カタチの内・外に様々な表情を見つけることができることです。それはプロポーション、ボリュームの中に有ります。良い椅子には良い表情が有ります。この複雑化した社会において、モノゴトを少し単純化して考えることで、何か新しいコト、美しいコト、気持ちの良いコトがデザインできればと考えています。この椅子 1/f は板に穴をあけ、丸棒を差し込むという最も原始的な椅子 Windsor chair を始まりとしています。「単純さ」の中の「カタチの可能性、多様性」がこの椅子の系譜の魅力です。

高橋 三太郎（札幌）

自分でデザインをし、作り、使い手に渡すという全体性を持った木工、木工家というスタイルが始まったのは1970年代半ばです。スタートは少し遅かったのですが、わたしもその第一世代と言われています。陶芸家の濱田庄司の言葉に「暮らしが仕事、仕事暮らし」とあります。モノを作ることを楽しむという原点を忘れないように、美しい椅子を作り続けたいと思います。生涯現役・一年生。

東海大学

中尾 紀行



### 道産材 BENCH 001 北大のイチョウ

サイズ：W1500xD400xH390、素材：イチョウ、オイル仕上

様々な北海道の木で作るベンチがあってもいいな、と考えた。樹種を決めず、板前がその日仕入れた食材で献立を作るように、手に入った木材で作る。北海道は森林資源に恵まれているが過半は針葉樹であり、針葉樹は軟かいから椅子には向かない。このベンチは針葉樹でも作ることができる強度を目標とし、全体は折板構造、接合部は石畳組継で丈夫である。良材ばかりにこだわらず、多少欠点があってもそれが「この木の個性」くらいのおおらかさで使いたい。時には集成材でも合板類でもいいと思っている。たくさんの樹種が並べば、それは家具の形をした道産材の見本帳となるだろう。その第1号が北大のイチョウで作られたこのベンチとなれば嬉しい。

中尾 紀行（札幌）

大阪府生まれ。京都市立芸術大学大学院修了。在学中にウェグナーの椅子を知り家具デザインを志す。1999年 北海道東海大学旭川キャンパスに赴任。以後、デザインを教える傍ら学生と共に家具製作を学ぶ。2004年 朝日新聞社主催「暮らしの中の木の椅子展」最優秀賞を受賞。2010年 東川町立東川中学高校の学童用家具をデザイン。2011年 東日本大震災の日に東北で誕生した子供達に椅子を届ける「希望の君の椅子」のデザインを担当。

Furniture Design Nacka

中村 昇



### 折畳座椅子

サイズ：W490xD460xH70（収納時）/420mm（使用時）、素材：イチョウ、オイル仕上

北大の構内で育ったイチョウ材を使用し、参加者全員で創作を試みた。小さな椅子を考える中で、より小さく収納の可能性を指向してみる。厳しい北国の環境で育ち、更に自然にゆだねた育成があらあらしいその一部を使って素材を素直に表現し、デザインを試みる。

中村 昇（札幌）

1956年 旭川の上川木工に就職。  
1965年 全国最良家具展で最高賞内閣総理大臣賞を受ける。  
1969年 スウェーデンへ渡る。  
1973年 IKEAスウェーデン株式会社に就職。イケアのデザインセクションに所属して、デザインの厳しさと楽しさを体験する。ポエングのデザインと開発に関わる。この商品が夢のような記録を残すアイテムになっている驚きと満足を感じる。約5年の後、退社し、帰国する。  
1978年 帰国後、独立してデザインを生業とする。カンディハウスのデザインを始め富士ファニチャーの商品開発に参画する。

村上 智彦



Temple Bench

サイズ：W1500xD395xH430mm、素材：イチョウ / 一部ナラ、オイル仕上

宮大工修行時代にお寺でよく見かけた腰掛け。お寺の軒先に置かれたり、東屋に並んでいました。大工さんが仕事の合間に頼まれて作ったり、余った材料で若い大工が腕試しに作ったりします。さりげなくてどこか懐かしい、どこにでもありそうなベンチを住宅用に寸法を見直してイチョウで作りました。

村上 智彦 (恵庭)

1978年北海道恵庭市生まれ。札幌市立高等専門学校インダストリアルデザイン学科建築デザインコース卒。関西を中心に社寺建築の世界に携わり、2012年から恵庭市に拠点を移し、社寺建築の伝統的な技術と知識、デザインを軸に、大工・建築家・デザイナーという立場を歩き来しながら幅広く活動している。

藤 祐 植  
原 川 木  
誠 諭 祐  
介



huw\_dc

サイズ：W380xD485xH780、SH420mm、素材：イチョウ、ウレタン塗装

化石になるほど古くから存在しているお馴染みのイチョウですが、家具材としては未知数。そもそも椅子に使えるだろうか？という疑問もありましたが、今回は「フロンティア精神」を掲げる北大の木という出自も後押しして、敢えてスタンダードでスリムな椅子のデザインで材料の可能性を検証してみることにしました。直線的な細身のフレームと薄く成型された座面・背板とを合わせて組上げることで軽量ながら荷重に耐える構造とし、座面をサイドフレームから浮かせるなど視覚的にも軽く見えるよう工夫しています。背と座に用いているイチョウ成型合板の加工はこれまで他に例が無いので、特に注目してほしいポイントでもあります。

植木 祐介、祐川 諭、藤原 誠 (札幌)

2014年6月21日結成。  
デザイナーの植木祐介と祐川諭、職人の藤原誠の三人によるユニット。札幌を拠点に、家具・プロダクト・インテリアのデザインから制作までを手がけています。



# 4. 製材の記録



2021年10月、石山通をわたる北海道大学の跨道橋の撤去に伴い伐採されることとなった約320本の研究林。今回の展示ではイチョウとアカナラを主として製材した。

一般にその柔らかさから椅子には向かないとされてきたイチョウだが、材としての活用可能性を探ることで伐採は木の終わりではなく、木が生きた記憶を内包する素材を生み出す最初の過程となった。

# 5. 椅子と、森と



対談映像は左のQRコードから御覧いただけます。



## #01 森の物語

“取手の部分の年輪を、思わず数えちゃいますね。ここからここまで何年かかったのかを考えながらこの木がどう生きてきたかが、想像します。”

石津真一(KANTO) ×  
森本淳子(北海道大学 農学研究院 生態系管理学研究室 准教授)



## #02 キノコと銘木

“サルノコシカケというキノコは日本だと、「猿の腰掛け」、つまり椅子に見えたのですが英語圏ですとブランケット、つまり「棚」と名付けられています。同じキノコでも、文化によって見方が変わるのが面白いですね。”

宮島弘之、仲上博明、後藤はづき(THREEK) ×  
玉井裕(北海道大学 農学研究院 基盤研究部門 森林科学分野 教授)



## #03 自然にやさしく

“日本のスタンダードじゃなくて、世界のスタンダードでみると「普通」が変わるかもしれません。”

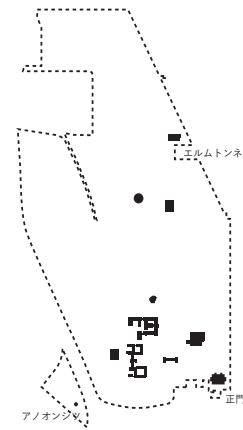
中尾紀行(東海大学) ×  
酒井恭輔(北海道大学 電子科学研究所 客員研究員)



## #04 ほどよい距離感

“キツネ色って何色なのでしょうね。季節によって、個体によってキツネの色は焦茶色だけでなく色々あるので、私は勝手にこの椅子のクッション部分をキツネ色だと思ってみていました。”

黒蔵亮太・真弓(つきとふね、元 gauzy calm works) ×  
池田貴子(北海道大学 CoSTEP 特任講師)



北海道大学校内で、木を感じる場所12箇所を選定し、トークの内容と合わせ収録しました。現在は運営していないエルムや農学部大講堂、中央図書館メディアコート、原生林、弓道部、札幌研究林 苗畑 温室(アノオンシツ)、北方生物圏フィールド科学センター会議室、遠友学舎、学術交流会館、古河記念講堂、総合博物館 理学部大会議室、医学部百周年記念館まで、さまざまな北大からの風景をご紹介します。



## #05 つくることにおいて

“人は、体験で自分のスタイルを知るようになるんですね。軸になる原体験があるわけ。それを自分で知ることが大事です。”

高橋三太郎(家具工房 santaro) ×  
山口未花子(北海道大学 文学研究院 人文学部門文化多様性論分野 准教授)



## #06 分けてみると

“分類したからこそ見えてくるものがありますよね。”

村上智彦(GEN COMPANY) ×  
首藤光太郎(北海道大学 総合博物館 助教)



## #07 植物の病気から

“病原菌を知ってからだと、森をみる視点が変わりそうです。今度、一緒に森を歩きたいですね。”

城浦光希(北の住まい設計社) ×  
中馬 いづみ(帯広畜産大学人間科学研究部門准教授)



## #08 根っこのコミュニケーション

“自然の世界には、相手を倒そうとか、完璧に片方に不利になるなどはないですね。個別に少しずつ変化しますがお互いにその変化をコミュニケーションしつつ、常に変化し続けます。”

木村亮三(gauzy calm works) ×  
内海俊介(北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 准教授)



### #09 変形菌と椅子

“単細胞なのに、  
なんでここまで形を変えられるんですかね。”

植木祐介、祐川諭、藤原誠(621) ×  
矢島由佳(室蘭工業大学大学院工学研究科 准教授)



### #10 椅子をつくる、まちが変わる

考えながら片手ではクマの耳をもったり、ちょっとおいてあるのを眺めたりするだけで、リフレッシュされる気がします。”

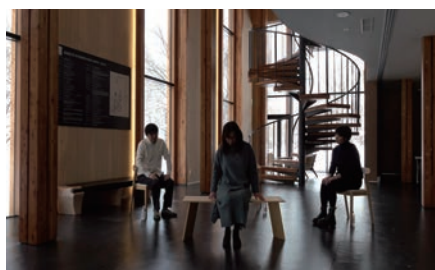
キシモトユキオ (Zoo factory) ×  
内海 佐和子 (静岡県立大学 経営情報学部 教授)



### #11 循環

“森には、自然のリサイクルシステムがあります。  
限られた資源を上手に使い回して、循環させて  
大きな生態系をつくるのは、すばらしいと思うんです。”

中村昇(Furniture Design Nacka) ×  
柴田 英昭(北海道大学 北方生物圏フィールド科学センター 教授)



### #12 寄り添いながら

“同じ業でも、同じ病気でも、人によって全部違うので  
それにできるだけ寄り添っていきたいです。”

友重圭司(gauzy calm works) ×  
天野麻穂(北海道大学大学院医学研究院 細胞生理学教室 講師、  
HILO 株式会社 代表取締役)

## あの、記憶と記録を交えて

1973年の札幌冬季オリンピックに向けて、北海道大学の敷地内に道路を通すために建てられた跨道橋がありました。跨道橋を渡って向かった先にポツとある古い温室に惹かれ「アノオンシツ」というアートプロジェクトを始めたのが2020年のことでした。跨道橋は老朽化で半世紀の年月を経て撤去され、その工事のため、約320本の木が伐採される話を聞いた時、木々の中に込められた物語を残したい気持ちが強くありました。振り返ってみると、その気持ちが人々をつなぎ、椅子の展示やトーク制作に至るようにした源だったと思います。

自然豊かな北海道大学をフィールドにアートプロジェクトを始めて、SAWと共同で伐採した木材で椅子をつくる企画を進めました。未利用材に光を当てて椅子をつくることは、大学・地元の資源を再発見すると同時に、森と私たちの関係をきちんと見つめるようにさせる、今の歴史を残す教材をつくることになると思います。普段家具制作にあまり使われないイチョウを含め、2本の木からできあがった個性豊かな12脚の椅子。展示では、その椅子を巡って広がった研究者とのトーク映像12本や、伐採した場所をもう一回訪れる内容にしました。

アノトキの、アノハシからの思い出を、アノオンシツで考える展示。ここで「アノ」が指すものは、まちの歴史と自分の記憶が交えたところでしょう。展示を自分なりの鑑賞をすることは、まちの未来に届ける種まきになると感じています。個人の記憶を集めてみんなの記録として種まきができるように、この展示にご協力いただいたクリエイターのみなさん、研究者のみなさん、支援していただいた関係者の皆さん、北大関係者のみなさんに深く感謝申し上げます。

木の下で、風に揺れる葉っぱの音を聞きながら歩いていた気持ちのような心地よさは、椅子を触りながら、トークを聞きながら、今後似たような経験をしながらも、蘇ってくると思います。名のないものの記憶について、それぞれの視点で記録した今回の実践が、今後のものづくりに、研究に、日常に、心地よいあの風のように感じられるとうれしいです。

朴 炫貞 (パク・ヒョンジョン)  
北海道大学 CoSTEP 特任講師  
「アノオンシツ」プロジェクト代表

本プロジェクトは科学研究費助成事業(課題番号:21K02940)、  
2021年度KNIT共同研究助成により制作されました。



新商品

osmo  
...in form und farbe



## オスモカラー カウンタートップオイル

- 用途：テーブル、キッチン等のカウンタートップ
- 透明（5分つや、3分つや、つや消し）
- はっ水性、防汚性に優れ、湯呑をおいても輪ジミがつきません
- オスモカラーメンテナンス商品で簡単にメンテナンス

ヨーロッパ規格EN71.3玩具品安全基準合格  
ヨーロッパ規格EN1186に食品安全基準合格  
日本建築学会、国土交通省建築／  
木造工事標準仕様書M-301適合



北海道地区代理店 **株式会社 アサヒ** E-mail info@kk-asahi.net  
http://kk-asahi.net/

オスモ&エーデル株式会社 https://osmo-edel.jp/

オスモカラー 検索

想いをかたちに 未来へつなぐ  
**TAKENAKA**

## 見えない所の「建」役者



小鍛冶組は基礎工事と躯体工事の専門事業者です。

### 株式会社 小鍛冶組

本社  
〒007-0890  
札幌市東区中沼町13番地  
TEL : (011) 791-3031  
FAX : (011) 791-2957

中央オフィス  
〒060-0907  
札幌市東区北7条東3丁目28-32  
井門札幌東ビル6階  
TEL : (011) 733-5588  
FAX : (011) 733-5589

苫小牧営業所  
〒053-0005  
苫小牧市元中野町4丁目15-12  
元中野事務所2階  
TEL : (0144) 82-9720  
FAX : (0144) 82-9721



www.kokaji.co.jp

# Toshin

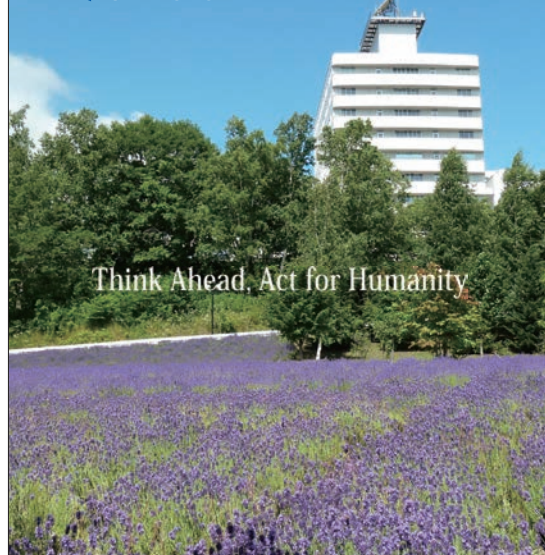
株式会社 登心

### 建具 / 家具 / 建築 金物

アトムリビンテック  
スガツネ・HAFELE・blum  
UNION・KAWAJUN  
長沢製作所・川口技研  
美和ロック・GOAL  
日本ドアーチエック  
MK・白熊・RYOBI  
ロイヤル・PIONEER・etc.

ADD 003-0859  
札幌市白石区川北 229 3  
TEL 011-879-8855  
FAX 011-879-8856  
Mail toshin@wine.plala.or.jp

TOKAI UNIVERSITY  
SAPPORO



Think Ahead. Act for Humanity

### 東海大学 札幌キャンパス

国際文化学部・生物学部

〒005-8601  
北海道札幌市南区南沢五条 1-1-1  
お問い合わせ：011-571-5111(代表)



## 有限会社 フジワラ

無垢材・合板・化粧単板/突き板

〒078-8238  
北海道旭川市豊岡 8 条 6 丁目 67 - 43  
TEL : 0166-35-0580

国産の自然塗料

# EURO

— ユーロー —

日本の気候、風土に合った日本生まれの自然塗料です



代理店

## 株式会社吉山塗料店

北海道札幌市中央区大通東8丁目  
TEL 011-241-0291 FAX 011-241-0290  
E-mail paint@yoshiyama-p.co.jp

## 札幌の木、北海道の椅子展 '21-'22



### 撮影

山岸靖司——— p.3-8

柿本拓哉——— p.9-21

### 会期

2022年6月4日(土) - 6月19日(日)

### 会場

GALLERY 創 (メイン会場)  
札幌市中央区南9条西6丁目1-36  
Tel. 011-562-7762  
Email. sou@agson.jp  
URL. <http://sou.agson.jp>

### アノオンシツ (サテライト会場)

北海道札幌市北区北8条西11丁目2 (北海道大学校内)

### 主催

SAW (Sapporo Association of Woodworkers)

### 企画

GALLERY 創

### 共催

北海道大学 CoSTEP  
朴炫貞 (特任講師)

### 協力

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター  
林 忠一 (企画調整室 嘱託職員)

### 助成

札幌文化芸術交流センター SCARTS 文化芸術振興助成金交付事業  
(公益財団法人札幌市芸術文化財団)

公益財団法人 道銀芸術文化助成事業

### 協賛

株式会社アサヒ、株式会社小鍛冶組、株式会社竹中工務店、  
学校法人東海大学、株式会社登心、有限会社フジワラ、  
株式会社吉山塗料

### 後援

北海道、札幌市、北海道新聞社

### 出展作家

gauzy calm works/ 木村 亮三・友重 圭司  
<https://gauzycalm.com>

KANTO/ 石津 真一  
<http://kanto-madeinsapporo.jp>

北の住まい設計社 / 城浦 光希  
<http://www.kitanosumaisekkeisha.com>

GEN COMPANY/ 村上智彦  
<https://gencompany.net>

家具工房 santaro/ 高橋 三太郎  
<http://www.santaroworks.net>

Zoo factory/ 岸本 幸雄  
<http://zoofactory.jp>

THREEK/  
宮島 弘之・仲上 博・後藤 はづき・レーヴィ ラウリラ  
<http://www.threek-sapporo.com>

つきとふね / 黒蔵 亮太・真弓  
(@tuki\_to\_fune)  
[https://www.instagram.com/tuki\\_to\\_fune](https://www.instagram.com/tuki_to_fune)

中尾 紀行 (東海大学)  
<https://www.u-tokai.ac.jp>

Furniture Design Nacka/ 中村 昇  
<http://nacka-web.net>

621/ 植木 祐介・祐川 諭・藤原 誠  
<https://621design.com>

